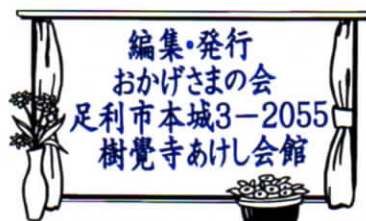


おかげさま



ねんぶつ
念仏

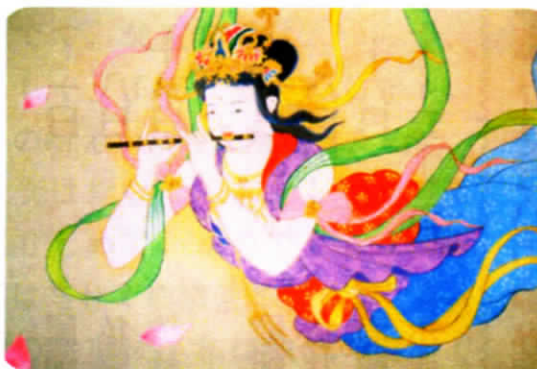
もう
申さるべし

この言葉は、「蓮如上人御一代記聞書」の中に見られる、年頭の挨拶に参った道徳に、蓮如上人が「道徳はいくつになるぞ」に続けて掛けられた言葉です。

◆ 『浄土和讃（親鸞聖人作）』の最後のところに、『現世利益和讃』があります。

南無阿弥陀仏を称えれば（『親によばれて—浄光寺寺報—』96号より）

「現世利益和讃」の最後に、
南無阿弥陀仏をとふれば
十方無量の諸仏は
百重千重圍繞して
よろこびまもりたもふなり



という一首があります。お念仏を称える人の人生は、十方の諸仏に囲まれ、守られている、とのお示しです。しかし、このご和讃をよくよく味わってみると、阿弥陀さまのご本願のおいわれをはからいなく聞かせていただいたなら、すでに十方の諸仏に守られていたことを知らされ、お念仏申さずにはおれなくなる。これこそこの世における最高のご利益なのだと親鸞聖

人はいわれているということに気づかされるのです。

松任谷由美さんの「やさしさに包まれたなら」という歌があります。

やさしい気持ちで 目覚めた朝は
大人になっても 奇蹟は起こるよ
カーテンを開いて
静かな木漏れ陽の やさしさに包まれたなら
きっと
目に写る全てののことは メッセージ

という素敵な歌詞を口ずさんでいると、なぜかわくわくする気持ちになってきます。年齢を重ねていくと、何事も「あたりまえ」としか見えなくなり、喜びも感動もなく、生きる意味さえ見失ってしまいがちです。「うれしい時も、悲しい時も、その一瞬一瞬を、あなたに寄り添い、見守り続けていくよ」という阿弥陀さまの言葉に包まれていると、自分の人生に無駄な時間はなく、今日が何事にも代えることのできない宝物のような一日であると知らされます。

《あけしの郷 明石山樹覚寺》
参加をお待ちしています

五月 一日 晨朝会

五月 六日 仏具磨き

五月 十一日 親鸞聖人降誕会法要

五月 十一日 法話 山崎龍明先生

五月 二十、二十一日 築地本願寺降誕会法要

六月 一日 晨朝会

六月 八日 仏婦

六月 十一、十三日 栃木南組念仏奉仕団

六月 十八日 法話会

七月 一日 晨朝会

七月 八日 仏婦

七月 十八日 法話会

八月 一日 晨朝会

八月 八日 仏壯仏婦物故者追悼法

八月 十六日 孟蘭盆会法要

八月 二十、二十一日 お寺の林間学校(群馬)

真実の歩みは安心の歩み 念仏とともに

あけし酔話

竹中先生のお話です。まずは、ご覧ください。

死は、ただ死で終わるものではありません。私たちは死から大切なことを教わります。

このお葬式での出棺も私には忘れえぬ常敬でした。

式場の玄関には、霊柩車が停められ後ろのドアが開かれていました。その脇に、小学一年生の娘さ

んが一人立っていました。彼女のお兄ちゃんは父親の兄弟とお棺に手を添えて、霊柩車に乗せようとしています。おかあさんはそのお棺に付き従っていました。出棺を見守っていた私は、その女の子に気付きました。

この女の子は、小脇に三十センチほどの縫いぐるみを抱えていたのです。私は、この子が昨夜のお通夜でも縫いぐるみを抱えていたのを思い出しました。そして、お葬式の間も抱えていました。

この時、私はこのかわいい少女がどれほどに父親の死を理解しているのだ



ろうと思いました。この思いの直後に、私の心は強い衝撃を感じました。彼女は、理解していたから縫いぐるみを抱いていたのです。父親の死は、つらく、悲しく、不安なものでしょう。この耐えがた時を耐えるために、彼女は縫いぐるみをしっかりと握りしめていたのでしょう。私には忘れえぬ情景となりました。この時以後、私は彼女の縫いぐるみを抱えている姿を見ていません。

(七日参りのお話 竹中尚文
自照社出版)





あけし あれこれ

野 茨 (ノ イ バ ラ)

ノイバラ バラ目バラ属バラ科

境内の墓地に上がる石組みの一部に、つるを枝垂れて咲く白い花が、とても美しく、可愛らしく寄り添って風に揺れているのを毎年楽しみにしています。秋には小さな赤い実を沢山付けて、これも絵になる素敵な植物なのですが、棘が沢山あり、枝をのびやかに広げるため、嫌われてしまい、枝を詰められてしまいます。



万葉の名は「うまら」と読まれています。

道の辺の 荊(うまら)の末(うれ)に 這(は)ほ豆の からまる君を

別(はか)れか行かむ 丈部鳥(はせつかべのとり) (巻二十一四三五二)

道の端に咲く荊の上に、這い上がる豆のようにからまるあなたと別れて、行かなければならないのだろうか。

ノイバラは、やせ地でも平気で生息し、めったに枯れることがない、生命力に富む植物。この強い性質を利用して、観賞バラを栽培する時に、接ぎ木の台木として用いることが多い。

花には非常にいい香りがあるので、この花を採取して香水の材料とするほか、若葉にはビタミンCが豊富に含まれているので、汁の具として使う地方もあるといわれる。また秋に赤く熟した実は、「営実」という名の漢方薬(利尿、下剤として使用)として使うなど、さまざまな利用法がある有用植物である。

花期は5月～6月。

